

平成24年11月14日

株主・投資家の皆様へ

フィンテック グローバル株式会社

代表取締役社長 玉井 信光

第18期の概況につきご報告申し上げます。

大型投資先のエグジット（株式売却収益化）を見送ったことによりプリンシパルインベストメント事業部門の収益は2億円程度にとどまり、他の事業部門である投資銀行事業・アセットマネジメント事業等の不振を補完することが出来ず、第3四半期までの赤字の流れのまま不甲斐ない成績のご報告となりました。まだまだ、企業投資エグジットの成否がグループ業績を大きく左右してしまう状況です。

投資銀行事業部門など当社の従来からの事業部門が、経常的・安定的な黒字化に向けて悪戦苦闘しつつも結果を出せていない反面、投資先の企業群は非常に好調で安定的・継続的な成長を実現しており、当社の事業の主軸がストラクチャードファイナンスのアレンジメントなどを行う投資銀行事業から企業投資事業に益々移行してきた感があります。

しかしながら投資銀行事業があるからこそ多種多様な企業から多くの投資機会のご相談を頂けるのであり、また投資後の成長を加速させる手段としても当事業は必要であると思料致します。やはり当事業部門を早期に黒字体質に転換させる必要があります。

以上より今期、第19期施策を以下のように展開してまいります。投資銀行事業に於きましては、不動産開発型証券化のアレンジや再生可能エネルギープロジェクトのファイナンスアレンジなどの業務受託増進を通じて増収を図りつつ証券業務のコスト見直しを図り当期1億1千万円の営業赤字を解消させます。アセットマネジメント事業に於きましては、軌道に乗ってまいりましたフィンテックアセットマネジメント(株)の事業を更に前進させつつ、極度の不振にあえぐF G I キャピタルパートナーズ(株)は他社との連携を含む抜本的な事業再構築を図り当期1億5千万円の営業赤字を解消させます。公共財関連事業はシステム開発部門の外部提携先への移管の模索を継続しコスト削減を図り、一方で営業推進体制を再構築し当期1億1千万円の営業赤字を解消させます。

この様な個別の対処を施し投資銀行事業など従来事業部門を黒字化させ、既存の投資先企業のエグジットを適宜実行し収益の上乗せを図ってまいります。また、期末に発生しました再保険部門における承服しがたい問題に関しましては、会計的には損失を先行して取り込みはしましたが徹底的に関係者との対話を継続してまいりたいと存じます。

前期は厳しい状況でありましたが、F G I グループ役職員一同鋭意邁進してまいりますので、引き続きご支援賜りたくお願い申し上げます。